

令和6年7月1日

報道関係各位

岩手県立大学研究・地域連携室

## 「盛岡リビングラボ設立キックオフイベント」開催について

岩手県立大学では、「盛岡リビングラボ設立キックオフイベント」を以下の通り開催します。

リビングラボは、これまでの産学官連携だけではなく、市民が参加する新しい地域課題解決の方法であり全国各地で実施されています。

今回盛岡でのリビングラボ設立に向けたキックオフイベントを、岩手県立大学アイーナキャンパスで開催します。

関心のある多くの方のご参加をお願いしたく、事前の周知及び当日の取材について、よろしくお願いいたします。

### 記

- 1 日 程 令和6年7月17日(水)
- 2 場 所 岩手県立大学アイーナキャンパス 学習室1 及び オンライン開催  
(滝盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1)
- 3 目 的 産学官の新しい連携の形として、全国各地で実施されている「リビングラボ」の活動を通して、盛岡における地域課題解決の方法を市民や行政、企業の方々と検討するため、実践事例から学び、活動可能性を検討する。
- 4 内 容 別添チラシを御参照ください。
- 5 定 員 40名(先着順)
- 6 受講料 無料
- 7 申し込み方法 申し込みは専用の二次元バーコードからお願いいたします。  
申込期限 7月15日(月・祝)17時まで



---

【問合せ先】岩手県立大学 研究・地域連携室 及川  
Tel.019-694-3330  
e-mail : satoshi\_o@ipu-office.iwate-pu.ac.jp



# 盛岡リビングラボ設立キックオフイベントの開催

リビングラボは、これまでの産学官連携だけではなく、市民が参加する新しい地域課題解決の方法で全国各地で実施されています。

盛岡でのリビングラボ設立に向けたキックオフイベントを岩手県立大学アイーナキャンパスで開催します。関心のある多くの方のご参加をお願いします。

**日時** 2024年7月17日(水) 10:00~16:30

【第1部】10:00~12:00 (開場・受付 9:30~)

【第2部】13:30~16:30 (開場・受付 13:00~)

**場所** 岩手県立大学アイーナキャンパス 学習室1 or オンライン併用  
(アイーナいわて県民情報交流センター7階)

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1

※会場参加は先着40名となっております。



**参加費** 無料

**主催** 岩手県立大学研究・地域連携本部

\*\*\*\*\*

## \*プログラム\*

【第1部】10:00~12:00

### リビングラボ 空き家活用のヒント

横浜リビングラボのプロジェクトの一つである空き家活用について株式会社Solar Crew COO 河原勇輝氏から情報提供していただきます。



【第2部】13:30~16:30

### 盛岡リビングラボの設立に向けて

1 リビングラボ先進地の事例紹介

①横浜リビングラボについて

(一社) YOKOHAMAリビングラボサポートオフィス 代表理事 河原 勇輝 氏

②岩手町リビングラボについて

岩手町様

2 盛岡リビングラボプロジェクト候補の紹介

①象と花プロジェクト 盛岡書房(株) 代表取締役 高舘 美保子 氏

②リンクアップウェスプロジェクト 川上塗装工業(株) 専務取締役 川上 冴華 氏

3 盛岡リビングラボの設立に向けた意見交換

\*\*\*\*\*

参加ご希望の方は、こちらの二次元バーコードよりお申し込みください。

※お申し込み期限：7月15日(月・祝) 17時まで



プレイベント リビングラボの基礎を学ぶための勉強会を実施します。

2024年7月3日(水) 13:00~18:00~の2回：1時間程度 アイーナキャンパス 学習室1

参加自由 内容 リビングラボの活動目的や実際の活動等の紹介

# リビングラボについて

リビングラボとは、「暮らし (Living)」と「実験室 (Lab)」を組み合わせた造語です。産官学民の様々なステークホルダーの参画を得たプラットフォーム (場) において、生活の場を実証フィールドとして、運営主体が地域や社会の複雑な課題を解決するための新しいサービスや商品を生み出す共創の手法です。

運営主体は企業、行政、大学、中間支援組織などが担っています。

リビングラボは1990年代前半にアメリカで生まれ、2000年代から欧州 (特に北欧) を中心に導入が拡大していった手法です。日本では2010年代半ばから各地でリビングラボによるプロジェクトが増えています。

リビングラボには様々なタイプがあります。最初は、企業が製品開発を行うときにユーザーである市民の意見を取り入れるためのオープンイノベーションの手法として出発しました。

現在、リビングラボは、自治体運営にも取り入れられています。官民が力を合わせ市民参加型プロジェクトにすることで、コストを抑えつつ「高齢化・子育て支援・まちづくりなど地域が直面する課題の具体的・効果的な解決につながる」と期待が寄せられ、地方創生や公助・共助の観点からも注目が集まっています。

## 講師等紹介

### ◇河原 勇輝 (かわはら ゆうき) 氏

- ◆株式会社Solar Crew COO
- ◆一般社団法人YOKOHAMAリビングラボサポートオフィス 代表理事
- ◆一般社団法人横浜イノベーション推進機構 理事
- ◆認定NPO法人green bird横浜南チームリーダー
- ◆横浜南養護学校 外部委員



中学卒業後、外構会社に就職。24歳でリフォーム&再エネ会社を設立。経営の中で地域に寄り添うことを学び、地域貢献やSDGsに取り組み始める。2033年には3軒に1軒が空き家になると予測されるほど深刻化する空き家問題、不足する避難所問題などを受け、2021年7月、空き家活用を主とする株式会社Solar Crewを立ち上げCOOとして活動中。まちづくりに関わる団体の役員やコーディネーター、ゴミ拾いを通じたゆるい交流をはかりながら、産官学民を巻き込んだ住み続けられるまちづくりに専念しています。

### ◇岩手町SDGs未来都市共創プロジェクトとリビングラボ

岩手町は2020年SDGs未来都市に選定され、その実現のために「岩手町SDGs未来都市共創プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトでは、「ブランド価値の向上」「SDGs未来都市構想の具現化」「シビックプライドの醸成」を基本方針とし、持続可能なまちづくりの骨子を組んでいます。企業や団体の方からは投資先として選ばれることを、地域内外の方からは暮らしたい・関わりたいまちとして選ばれることを目指しています。このプロジェクトではリビングラボという手法を主軸に活動しています。

### ◇盛岡書房 象と花プロジェクト

象と花は古本販売の盛岡書房と、新刊書店のさわや書店が協同で行うプロジェクトです。プロジェクトに賛同する個人や団体から読み終えた本を回収し、「盛岡書房」が査定。その査定金額を子どもたちへ贈る本の購入代金に充てます。子どもたちへ贈る本の選書を「さわや書店」が担当。本は0歳から高校生までに向けたものを選び、カタログを作成。その中から子どもたちが読みたい本を選びます。岩手医科大学付属病院の無菌病棟に入院する子どもたちなどに寄贈されています。盛岡書房は就労継続支援B型作業所として障がい者の支援を行っています。

### ◇川上塗装工業 リンクアップウェスプロジェクト

SDGsについて学ぶ中で、衣類廃棄物の問題を知りました。綿のTシャツを1枚作るために使用する水の量は2,720L。一人の人間が3年かけて飲む水の量と同じ。そんな貴重な衣料が不要になると再利用されるのはわずかで、約74%が焼却・埋立て処分されています。また、地域の福祉施設の仕事が少なく、障がい者の仕事の確保ができないと工賃も支払われないという現状も知りました。そんな現状を知り2021年から「リンクアップウェス」の活動をはじめました。地域から不要な布をご寄付いただき、福祉作業所へ裁断の仕事を依頼する。できたウェスを日々の仕事で使用します。資源循環と障がい者の雇用創出につながる活動です。2021年からは販売も開始し、裁断工賃を含む経費以外の収益は岩手や世界に役立つ活動に寄付します。最近では小学校でも布を集める活動がはじまり、教育現場にも広がっています。活動を通じてSDGsの目標である「8.働きがいも経済成長も」「12.つくる責任つかう責任」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」に貢献します。